



背景・目的

- 短期的な気候変動防止と大気汚染防止の双方の観点から設立された国際パートナーシップ「短期寿命気候汚染物質削減のための気候と大気浄化のコアリション（CCAC）」において、我が国の技術・経験を活かし、アジアでの活動を主導。
- 短期寿命気候汚染物質（SLCP）の一つで、大気汚染物質でもあるブラックカーボン（BC）は、非効率・不完全な燃焼によって発生。ブラックカーボン削減はエネルギー起源CO2削減と密接に関係。
- 国内及び海外（特に、対策ポテンシャルの大きいアジア地域）におけるSLCP対策の進展に貢献し、また、CCACにおいても効果的な活動を展開するため、国内のブラックカーボン等の排出実態及び対策技術等に関する情報の収集・蓄積、アジア地域における対策に関する情報の収集・課題特定が急務。

事業スキーム

- (1) 拠出先：国連環境計画（UNEP）
- (2) 委託先：民間団体等
- (3) 実施期間：平成25年度～32年度（2020年度）

事業概要

- (1) 短期寿命気候汚染物質削減に関する国際パートナーシップ拠出金（138百万円）
- (2) 短期寿命気候汚染物質削減対策調査（51百万円）
 - ① エネルギー起源発生源からのブラックカーボン等の排出量の把握・検証
 - ② ブラックカーボン等の排出削減対策調査
 - ③ アジア地域における対策措置検討調査
 - ④ 日本の貢献の海外への発信

期待される効果

- 我が国の技術・経験を活かし、アジア地域におけるSLCP及びエネルギー起源CO2を一体的に削減し、今後2050年までの気温上昇を0.6℃軽減に貢献するとともに、アジア地域の大気汚染対策にも貢献する。

イメージ

排出実態、対策技術等に関する情報の収集・蓄積
(国内対策)

エネルギー起源発生源からのブラックカーボン等の排出量の把握・検証

- 各種発生源（産業、家庭・業務等、自動車等）からの排出量調査
- 全国排出量推計の実施、検証、改善の検討

ブラックカーボン等の排出削減対策調査

- 各種発生源における対策技術・関連法制度の情報収集
- エネルギー起源CO2対策との共通対策特定、効果評価

アジア地域等における対策情報の収集・課題特定
(海外展開)

アジア地域における対策措置検討調査

- 途上国の排出実態把握に向けた調査・支援
- 既存ブラックカーボン対策（産業、家庭、自動車等）の情報収集、課題特定
- 効果的な対策事業や政策手法の検討

得られた知見を活用して連携

- 我が国の技術・経験を活かした、アジア地域におけるSLCP及びエネルギー起源CO2の一体的削減
- より効果的なSLCP削減対策の推進



CCACのアジアでの活動を主導

